

山口大学AO入試入学者の合格から入学までの実態調査結果

大久保 敦（山口大学アドミッションセンター）

山口大学ではAO入試合格者に対して、入学前指導を実施している。入学前指導の今後のあり方を考察するために、合格後入学までの期間の実態調査を行った。その結果、合格後も学校生活の占める割合が高いこと。その学校の授業も多くは受験にシフトしていること。学習への意欲を維持するためにセンター試験を受験していること。大学からの入学前指導は概ね好評であるが、一部に動機付けや実施方法などに工夫が必要であることなどが判明した。

1. はじめに

国公立大学で実施されているセンター試験を課さないAO入試は、その多くが12月末までに合格発表が行われる。従って、合格者にとっては大学により差はあるものの、合格発表から大学入学までの期間が必然的に長期間にわたることになる。このように早期に合格者が決定することの多いAO入試の拡大に伴い、合格者にとって入学までの長い時間をどのように過ごすかは大きな課題の一つである。この点については、たとえば平成16年度大学入学者選抜実施要項（文部科学省、2003）には、入学手続きをとった者に対する入学後の学習準備を出身校と協力して行うことを望んでいる。一方、現実にはこの期間に入学予定者を対象とした研修会の開催や通信教育等による課題学習を実施する大学（左巻ほか、2003）もあれば、本人の自主性に任せ特別な指導を行わない大学もある。山口大学のAO入試では10月下旬の合格発表後、次章で述べるような入学前指導を行っている。しかし、合格した高校生たちは、入学までの5ヶ月あまりの時間をどのように過ごしているのだろうか。また、入学前指導は機能しているのだろうか。そのような疑問が残る。本調査は、そのような問題意識のもとに、山口大学AO入試合格者の合格から入学直後までの期間の実態を把握し、早期合格者への対応を策定するための資料を収集する目的で行っ

た。なお、本稿ではこのうち特に入学までにしぼって報告を行う。

2. 入学前指導

合格後入学までの間、合格者研修会（以下入学前セミナー）、それに引き続いて通信による入学前の学習指導を行った。平成13年度の試行期間を経て、平成14年度および15年度は、12月の中旬の土日を利用し1泊2日の日程で県内の公共宿泊施設を会場として入学前セミナーを実施した。また、年が明けた1月から3月までの3ヶ月間は、英語コミュニケーション能力養成（TOEIC）の指導を全員に、また各学部・学科の基礎学力養成あるいは動機付けなどの指導を学部・学科ごとに異なる内容でそれぞれ通信教育にて実施した。

3. 調査方法

平成15年度山口大学AO入試入学者を調査対象とし、入学後の平成15年5月16日にアンケート方式で調査を行った。調査対象者72名のうち62名から回答を得ることができた（回収率86.1%）。また調査内容は、次に示す7分野合計43項目である。

- ・ 合格後入学までの生活全般（5項目）
- ・ 合格後授業終了までの学校生活（5項目）
- ・ 大学入試センター試験の受験（3項目）

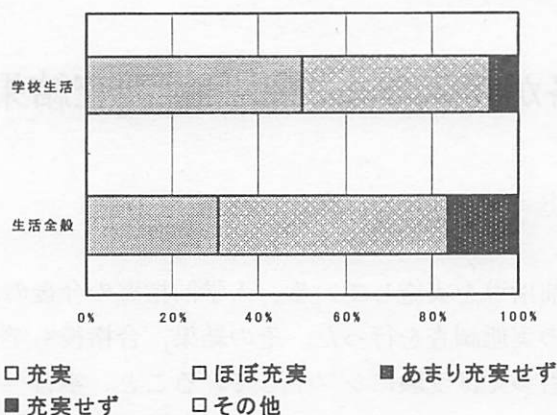


図1 合格後の生活の充実度

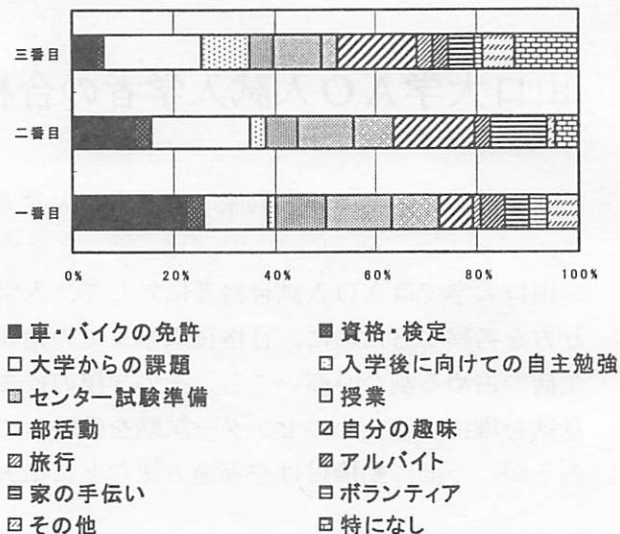


図2 合格後の生活で力を注いだこと

- ・大学からの課題学習 (TOEICおよび学部・学科) (10項目)
- ・大学入学後の学生生活 (18項目)
- ・AO入試で入学したことの評価 (1項目)
- ・自由記述 (感想, 意見, 要望)

4. 調査結果

4.1 合格後の生活

4.1.1 合格後の生活の充実度 (図1)

合格後入学までの生活全般および合格後授業終了までの学校生活ともに「充実」および「ほぼ充実」を合計した積極的な回答がともに8割を越えた。しかし、生活全般については「充実」と回答した割合が学校生活に比較して低い(生活全般 30.6%, 学校生活 50.0%)こと、またそのことと呼応するかのように「あまり充実せず」および「充実せず」を合計した消極的な回答が3倍弱上回った(生活全般 16.1%, 学校生活 6.0%)。

4.1.2 合格後の生活で力を注いだこと (図2)

回答結果から、「大学からの課題」は二番目、三番目に力を注いだことにおいては1位に位置付けられているものの、「車・バイクの免許取得」が何よりも優先して力を注ぐ者が多いこと。また「入学に向けての自主勉強(9.5%)」は三番目に力を注いだことにおいて4位にでてくるが、「特になし(12.7%)」よりも下回る

こと。一方、「授業」と「部活動」を合計し、学校生活として一括してみると、一番目に力を注いだこと、二番目に力を注いだこと、三番目に力を注いだことのそれぞれにおいて1位、1位、3位となり、学校生活が大きな割合を占めていることなどが判明した。なお、「資格・検定」と回答した者の多くは専門学科(理数科以外)出身者であった。

4.2 高校の授業

4.2.1 通常の授業の終了時期 (図3)

9割の回答者が「1月下旬」までに通常の授業が終了している。またその中では「1月下旬」が一番多く、次いで「12月」「1月中旬」「1月上旬」の順であった。一方、これを合格後の授業期間で見ると3ヶ月以上(55.7%), 2ヶ月以上3ヶ月未満(24.6%), 2ヶ月未満(19.6%)となり、半数以上が合格後に3ヶ月間以上の授業があることが判明した。

4.2.2 合格後の授業内容 (図4)

「すべてが受験対策(25.8%)」「多くが受験対策(30.6%)」「受験と一般の内容が半々(12.9%)」を合わせ、授業内容の半分以上が受験対策となっている回答は実に7割弱に達することが判明した。なお、授業内容が「すべて一般(14.5%)」と回答した者の出身学科内訳は、普通科2名、専門学科(理数科以外)7名であった。

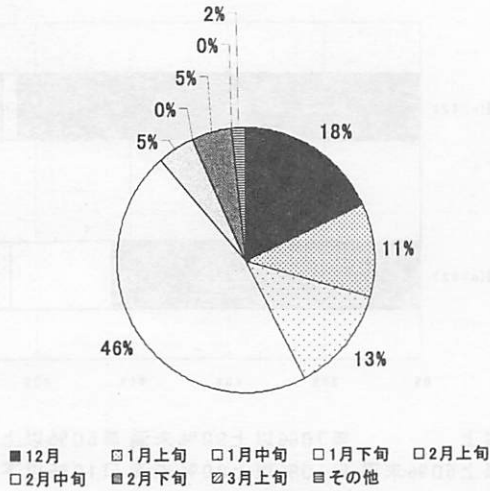


図3 通常授業の終了時期

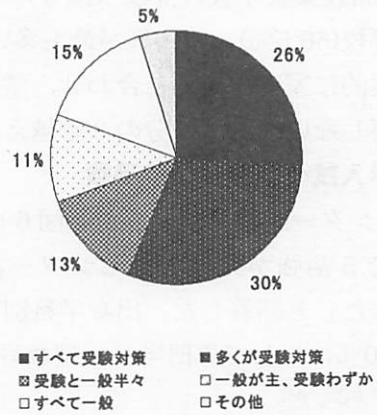


図4 合格後の学校の授業内容

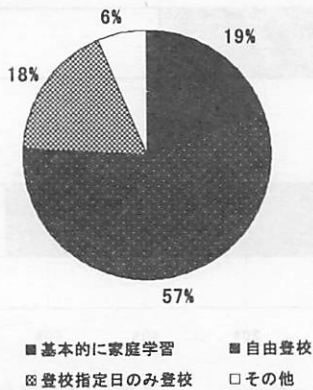


図5 通常授業終了後の登校

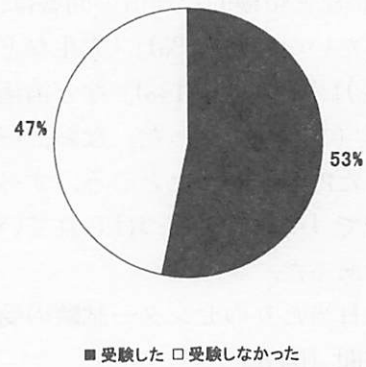


図6 センター試験の受験

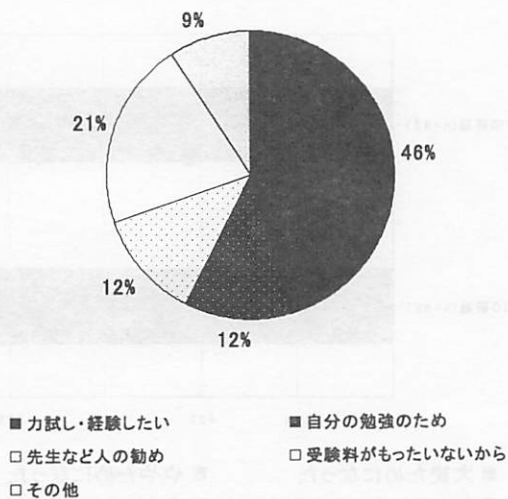


図7 センター試験の受験動機

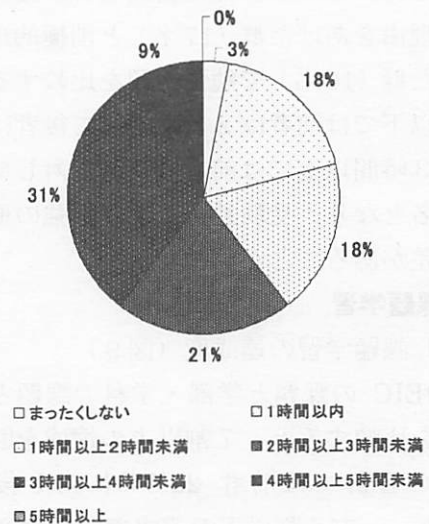


図8 センター試験のための1日当たりの勉強時間

4.2.3 通常授業終了後の登校 (図5)

「自由登校(56.5%)」の回答が最も多いが、「基本的に家庭学習」と合わせ、学校への登校を要しない回答は4分の3を越えた。

4.3 大学入試センター試験受験

4.3.1 センター試験受験の有無 (図6)

全体で5割強が大学入試センター試験を「受験した」と回答した。出身学科別では普通科60.0%に対して専門学科(理数科以外)33.3%であった。

4.3.2 センター試験受験の動機 (図7)

センター試験を受験した回答者に対して、さらに受験動機を尋ねたところ、「力試し・経験したい(45.5%)」「自分の勉強のため(12.1%)」など積極的な理由の回答は、「受験料がもったいない(21.2%)」「先生など人の勧め(12.1%)」「その他(9.1%)」など消極的な理由を若干(1名)上回った。なお、「その他」と回答した内容を尋ねたところ、すべて学校側の方針で「受験が義務づけられている」との回答であった。

4.3.3 1日当たりのセンター試験の受験勉強時間 (図8)

同様にセンター試験を受験した回答者に対して、勉強時間について尋ねたところ、5割強が毎日2時間以上受験勉強していることが判明した。しかし、先の質問項目の回答で積極的理由をあげた群(17名)と消極的理由をあげた群(16名)で勉強時間を比較すると1時間以下では前者は2名に対して後者は5名、一方3時間以上では前者は9名に対して後者は4名となり、受験動機により勉強の取り組みに差があることが判明した。

4.4 課題学習

4.4.1 課題学習の達成度 (図9)

TOEICの課題と学部・学科の課題との達成度を比較すると、7割以上の達成を回答した者の合計では前者22.6%に対し後者は77.4%、一方5割以下の達成では前者35.5%に対し後者は17.1%となり、達成度に差が認

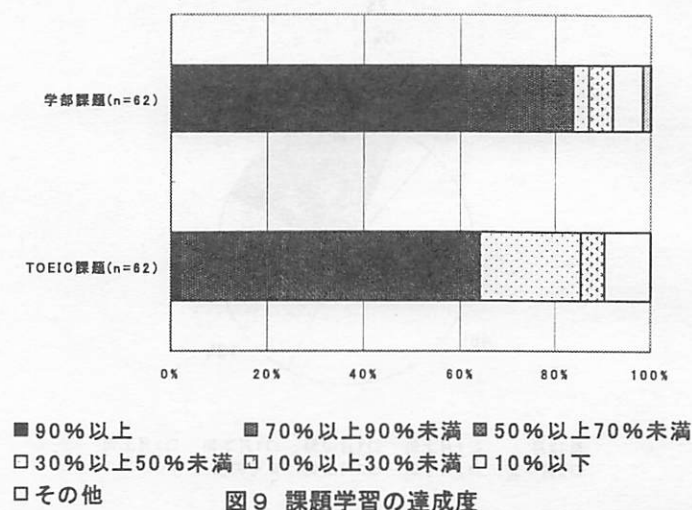


図9 課題学習の達成度

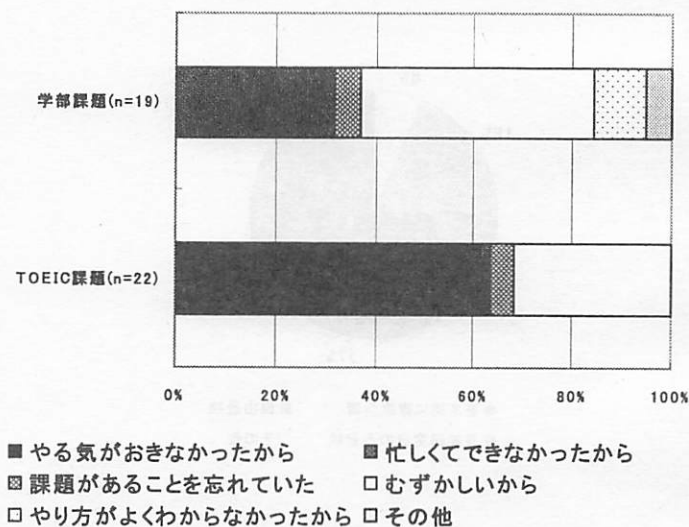


図10 課題学習ができなかった理由

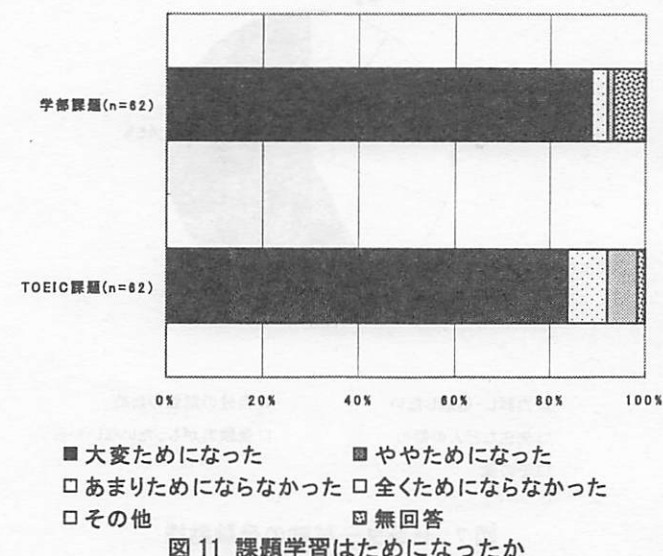


図11 課題学習はためになったか

められた。特に学部・学科の課題では「90%以上」と回答した者が6割を越えているのに対し、TOEICの課題では1.6%（1名）と対照的であった。

4.4.2 課題学習ができなかった理由（図10）

課題達成度50%以下の回答者に対し、できなかった理由を尋ねたところ、回答の第1位には、TOEICの課題では「やる気がおきなかったから(45.5%)」、一方学部・学科の課題では「むずかしいから(47.4%)」がそれぞれあげられた。さらに後者では「やる気がおきなかったから」という回答は皆無であった。

4.4.3 課題の成果に対する評価（図11）

TOEICの課題および学部・学科の課題とも「大変ためになった」「ややためになった」を合計した積極的な回答は8割を越えた。また「全くためにならなかった」との回答も両者とも皆無であった。一方、「大変ためになった」のみでは前者12.9%に対して後者38.7%と差が認められた。

4.4.3 AO入試で合格したことの評価(図12)

「大変誇りに思う(41.9%)」および「やや誇りに思う(38.7%)」を合わせた回答は8割を越えた。一方、「まったく誇りに思わない(3.2%)」「あまり誇りに思わない(6.5%)」を合わせた回答は1割以下であった。しかし、誇りに思わない理由を尋ねたところ、

「たまにAO入試受験者＝勉強しないものと思っている人がいるのが辛い」

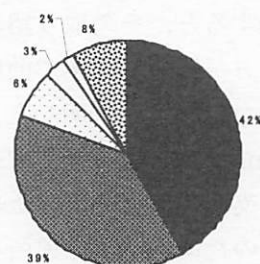
「一般で入った人より学力が劣るから」

などの回答に代表されるように、学力試験を受けずに入学した負い目や学力に対する不安を回答したすべての者（7名）が記述していた。

5.まとめ

5.1 合格後の学校生活・生活全般

合格後の学校生活および生活全般とも、その充実度はほぼ良好との回答を得たが、どちらかという学校生活のほうがより充実度が



■ 大変誇りに思う ■ やや誇りに思う
 □ あまり誇りに思わない □ まったく誇りに思わない
 □ その他 □ 無回答

図12 AO入試で入学したことの評価

高いようである。これは合格後の生活で力を注いだことの回答の中に学校生活に関する回答の割合が比較的高いことも調和的である。従って、授業が終了した後の生活をどのように過ごすかが課題となる。

5.2 合格後の学習

回答者の半数以上が合格後の高校での授業を少なくとも3ヶ月以上受けている。しかし、そこで展開されている授業内容は職業系専門高校出身者を除くと、受験対策で半分以上が占められているということが判明した。このような環境の中で学習への意欲を保つことの困難さは容易に想像できる。従って、後述する入学前指導のあり方にも関連して、大学側のサポートについても、従来の補習教育を重視した内容から質的な変換を要することがわかる。

5.3 センター試験

回答者の半数以上が大学入試センター試験を受験していた。前述の学習への意欲を維持する機能を持つと考えられるが、その受験動機は能動的と受動的の回答が半々であった。また能動的受験者と受動的受験者との間には受験勉強の時間にも差があるようである。

5.4 入学前指導

入学前指導、特に大学からの課題学習につ

いては、TOEIC の課題および学部・学科の課題を比較すると、その取り組みや評価について前者の方が後者に比べて前向きな回答が明らかに少ないことが判明した。小野(2004)は e-learning による語学学習において、Eメールのみの支援の群と支援のための人材をそろえ、学習のための時間や場所を確保し指導した群との間でその学習効果を比較している。これによると、前者は目的達成の途中で全て脱落したのに対して、後者は脱落が皆無であり、その要因は直接指導による動機の維持の差によるものとしている。従って、TOEIC 指導に関してはその動機付けおよび、本学で一昨年度より必修化された TOEIC 授業との連携を考慮した取り組みが必要である。一方、各学部・学科の指導は概ね良好との評価を得ているが、その中には補習教育に偏った内容のものも見受けられる。入学後も意欲的に大学生活を継続してもらうためにも、動機付けや意欲の高揚を意識した指導内容の工夫が必要である。

5.5 精神的な援助

AO入試合格者にとって、学力検査を受けないで合格したことの負い目や学力への不安は、受験シフトした学校生活と無関係ではなさそうである。これらの回答者からの訴えは、合格後の学習だけではなく精神的な援助も何らかの形で必要であることを示していると考えられる。

引用文献

- 文部科学省, 2003, 『平成 16 年度大学入学者選抜実施要項 (平成 15 年 6 月 5 日 15 文科高第 185 号文部科学省高等教育局長通知)』
- 小野博, 2004, 「プレースメントテストとリメディアル教育教材の開発」『共同研究「ユニバーサル化時代における高校と大学の接続のあり方に関する調査研究(イ)」報告書 アドミッション・ポリシーと入学受入方策—大学における学生の入学受入方策

に関する総合的調査研究— 第 10 章 大学教育の改善』大学入試センター:145-159. 左巻建男・大嶋知之, 2003, 「多様なスクーリングプログラムによるダビンチ (AO) 入試と入学前教育」『国立大学入学者選抜研究連絡協議会題 24 回大会(平成 15 年度)研究発表予稿集』 75-80.